

# 平成26年度 第1回南丹市行政評価推進委員会

## 会 議 録(概要版)

日 時：平成26年7月15日（火） 午後2時～

場 所：南丹市役所1号庁舎3階防災会議室

出席者：南丹市行政評価推進委員

窪田好男委員長、四方宏治委員、宮本三恵子委員

南 丹 市

松田副市長

事 務 局

大野企画政策部長、堀江企画調整課長、野々口課長補佐、塩邊係長

傍 聴 者

0名（定員5名）

### 1 開 会

### 2 委嘱状の交付

<委嘱状の交付>

### 3 副市長あいさつ

### 4 委員長選出

窪田委員を委員長として選出

<委員長あいさつ>

### 5 議事

#### (1) 平成26年度の行政評価の取り組みについて

- ・第1回目は南丹市の置かれた状況や、評価をどのような方法でやるのか、といった点を委員と事務局との間でしっかり相談し、ポイントも確認したうえで外部評価を行いたい。
- ・事業貢献度評価を行う全部局長というのは、ランダムに割り振られるのか、施策に関連する部局長のみで協議するのか。  
→基本的には施策に関連する部局長でグループとしているが、部局の中には評価対象事業がないところもあるため、関連がなくても違う視点からの評価を期待して入ってもらっている。
- ・施策ごとにメインの担当部長がいるのか。  
→いる。その方が主管部局長となり、最初の概要説明を行う。

- ・市民への周知の徹底というのは難しいと考える。何かの機会にアピールされたのか。  
→現在、HPで委員会開催の周知をしているが、来年度は市内の全家庭に配られる「お知らせなんたん」でも委員会開催の記事を掲載したいと考えている。ただし、発行日と委員会の日程によっては難しい場合もある。
- ・委員会の報告書が予算編成にどう反映されたのかが見えてこない。これまで評価を行ってきたが、何回も同じことを繰り返しているように思う。  
→評価結果をもとに、施策担当部局においてどのように改善できるかと求めをしているが、成果品として整理までできていない。しかし優先度をつけることによって、効果が上がらないと判断した事業については、予算配分で前年よりも減額算定することにより財政上の反映をしている。
- ・限られた財源での効率化という意味では、大きく変えたところなどは市民に説明し、その結果が満足度なども含めて本当に効果が上がっているのかという評価を客観的にする必要がある。5年後には交付税の特例措置もなくなるということなので、計画的に進めていく必要がある。
- ・委員からの指摘を担当部局がどう受け止められているのかという問題と、南丹市では指摘した内容が担当部局に伝わるのが最終の報告書を作ってからとなるので、やや弱く感じるのかなと思う。
- ・施策優先度評価の結果が昨年度の行政評価の結論となるのか。委員からの意見が反映されて、優先度が決められ、次年度はその結果に従って事業計画を組み予算を編成するという流れができています。そうすると右上の方にある施策は、予算を去年よりも手厚く積極的に配分しようということになるのか。AAAは積極的に、進めていくということでしょうか。  
→基本的にはそうである。予算については枠配分を行っており、AAAについては配分上も当然優先される事業となる。その配分の際の基準として使っている。

## (2) 平成26年度行政評価推進委員会の進め方について

- ・歳出削減の提案という目的を設定しているのはよいと思うが、それぞれの施策担当部長が22施策のどれもが大事であるが、削るところは削らないと今後市の財政がもたないということを共有されているのか、またどのように共有されているのか。  
→財政サイドからは機会があるごとに説明しているが、部局サイドではこれも大事あれも大事というのがある。歳出削減を進めなければならないため、今年度はそこに重点を置いている。もう少し全体の会議や内部協議の中で歳出削減の意識付けをしていかなければならない。
- ・委員会としても歳出削減の提案をするが、庁内でもその意識を共有していただきたい。各施策の担当の部同士で相談し、削減しつつも成果を高めるという案を検討いただいて、外部の視点でチェックするというスタンスでないとうまく進められない。
- ・我々委員の任期は2年である、2年後の市の財政的な目標に向かってしてはどうか。

全施策ができなくても重点なところを2年目の評価対象として、絞り込んで評価し、任期内で2年間の取り組みとしたほうがよい。

- ・2年間で一定の成果があれば、このやり方を続けられればいいと思う。まずは今年やってみて、来年で残りの施策をできるところまですることとして、様子を見てはどうか。
- ・前年度の事業を評価するため、どうしてもタイムラグが出てくる。評価の軸をどの時点にすれば効果的になるのか。
- ・行政評価という性質上、メインには前年度に実施したことの是非を問うものである。私たちが発言するときに過去に実施されたものが適切であったのかということを行っているのか、今後の助言や提案をしているのかということを知るように区別して指摘すればいいし、ヒアリングで回答いただく各部局でもそこを意識していただければいいのではないかと。過去こうしておくべきだったのにできていなかったと指摘せざるを得ない場合もある。
- ・指摘の中身としては、行政評価で過去にされたことの妥当性の評価と、今後どうしていくのかというところの議論と、それが歳出削減につながっていくということから、3段階に分けてはどうか。
- ・主管部局長からの冒頭の説明の中で過去である平成25年度の話と、今こうしている、これからこうしていくという話を区別していただきたい。事前にいただく資料にこの事業は前年度で終わったものだとわかるようにしていただきたい。我々委員からも次の予算でこうすればどうかという提案と、平成25年度の内容についてどうだったのかという指摘を区別すればよいのではないかと。
- ・施策貢献度結果等の資料を事前にいただいて、部局長の行った評価判断でいいかというのを検証し、評価の低いものはなくすか、縮小することになるので、そうした場合に施策として全体の整合を取るためにはどうすればよいかという意見や助言を各委員に伺いたい。また、厳しく見る場合、そうでない場合で各事業に関して現状維持、削減ということで考えることとしたい。『優先度が高くて現状維持でも「違う」「おかしい」ものには必ず指摘する』、『もっと踏み込んで削るとしたらという点でも指摘する』ということとして、これらを踏まえご判断いただきたい。
- ・財政が厳しい中、施策の推進には民間活力を取り込んでいくという視点も必要ではないかと思う。

#### **【進め方のまとめ】**

- ・施策としての有用性や費用対効果と歳出抑制の両視点からの評価、おおむね現状維持する場合と大きく切り込んで削減する場合の2通りの意見や提案、前年度事業への評価なのか現在進行形の事業などへの今後に向けたアドバイスなのかを明確にして行う。

### **(3) その他**

- ・事務局から次回のスケジュール等を確認

## **6 閉会**